

令和7年度、 仲良し文庫が新しくなります!

石井方式 表記は漢字かな交じり

年中児向け



多彩なお話と童画で 子供たちの心を育みます

- 日本昔話と世界名作から精選した、愉快なお話やどきどきするお話を毎月1話ずつ。
- 子供たちをお話の世界に引き込む文章と絵。
- かわいらしい絵から民謡調の絵まで幅広い画風に触れることができます。
- 裏表紙はお話の裏表紙。お話の余韻が楽しめます。
- お話音声が見られるQRコードを掲載。読み方がわからない時のご参考に。

新型コーナー

文化としての日本語に触れ

日本語の彩を体感する

文化を音読 弾む言葉で日本語晴れ

- 毎号1作品、日本人の感性を育む文章を紹介。
- 使い方は音読するだけ。
- 意味は教えずとも、奥行きのある日本語を体得していきます。



俳句声に出して読もう

日本の四季、五七五のリズム、韻
美しい日本語の響きを
声に出して感じる俳句のコーナー

- 毎号2句ずつ俳句を紹介。
- 美しい絵で俳句の世界観が演出されています。子供たちの想像を膨らませ情緒を育みます。



童謡の世界

日本の心を伝える
童謡の世界

日本の心が歌われている大切な童謡を選定。
歌詞の情景を切り取った童謡画が、
童謡の世界に誘います。
全面1ページに拡大されダイナミックに。

仲良し通信

絵本を更に楽しむための
メッセージがいっぱいの
仲良し通信

改訂にあわせて『素話カードセット』も
リニューアルされます。

(提出漢字が異なりますので、これまでのカードセットは
ご活用いただけません。ご注意ください)

お話ラインナップ

4 舌切り雀 文：中島和子／絵：高見八重子
可愛がっていた小雀がいなくなり、心配したお爺さんは遠い遠いところまで捜しに出かけます。無事に小雀と再会し、大判小判のお土産まで貰ったお爺さんですが、一緒に暮らすお婆さんのもっと沢山の財宝を貰おうと欲を出し……。日本五大昔話の一つ。

弾む言葉で日本語晴れ わらべ歌「なかなかホイ」

5 食わず女房 文：横山充男／絵：小倉正巳
けちな若者の家に、「食事はとりません」と言って嫁にきた女性。とてもよく働くのに何も食べないので、不思議に思った若者は、こっそり嫁の様子をのぞき見します。嫁は一体何者だったのでしょうか。端午の節句、菖蒲とよぎにまつわる由来話。

弾む言葉で日本語晴れ いろは歌

6 そこつ惣兵衛 文：藤田富美恵／絵：後藤範行
うっかり者の惣兵衛さんは、自分のうっかりを治してもらおうと、お参りへ出かけます。ところがその道中でも次々に失敗を繰り返します。惣兵衛さんのうっかりは治るのでしょうか。落語の「愛宕参り」や「堀の内」でも有名な笑い話。

弾む言葉で日本語晴れ 数え歌「一番初めは」

7 浦島太郎 文：越水利江子／絵：唐木みゆ
海辺で亀を助けた心優しい青年、浦島太郎。恩返しにと、亀は浦島太郎を海の底にある竜宮城へと連れて行ってくれます。きらびやかで幸せな世界に浸った浦島太郎ですが、故郷が恋しくなり、乙姫様からお土産を貰って帰ることにしますが……。

弾む言葉で日本語晴れ 付け足し言葉

8 兎の大騒ぎ 文：北川チハル／絵：パーサンスレン・ポロルマー
お釈迦様の善行を547話集めた『ジャータカ物語』の中の一つ。兎が木の葉の落ちた音を地面の割れる音だと勘違いして逃げ出し、兎の話聞いた他の動物たちも逃げ出し大騒動に。確かめることなく噂話を鵜呑みにすることの愚かさを説いたお話。

弾む言葉で日本語晴れ 早口言葉

9 梨売りと仙人 文：竹内もと代／絵：譚小勇
梨売りの男が、お爺さんから一つ梨を恵んでほしいと頼まれますが、ケチな梨売りは、たった一つの梨も恵んでやりません。でも、このお爺さんの正体は仙人。イリュージョンのような魔術で、梨売りの男を懲らしめます。中国で古くから伝わる昔話。

弾む言葉で日本語晴れ 秋の七草「虫のお国」

10 風の神と子供 文：深山さくら／絵：藤本四郎
村の子供たちが南風の神に、栗や梨、柿の豊富な場所に連れて行ってもらいます。しかし、南風に置いていかれてしまい困っていたところ、北風の神に助けられ、村に帰るお話。季節の移り変わり、四季のある日本が生んだ昔話です。

弾む言葉で日本語晴れ 落語「孝行糖」

11 雌鶏と小麦粒 文・絵：たちもとみちこ
鶏のお母さんが小麦を育てようと、豚、鴨、鼠に種まきや収穫を手伝うように頼みますが、三匹は「面倒くさい」と遊んでばかり。最後にパンが焼きあがりますが、手伝わなかった三匹は食べられません。リズムカルな文章と繰り返し楽しいお話です。

弾む言葉で日本語晴れ 鳥の鳴き声「梟と燕と鶏」

12 十二支のお話 文：井上林子／絵：かじりみな子
12年に一度回ってくる王様の座を巡って、1月1日に動物たちが神様のもとへ競走をすることになります。鼠はあんな小さな体で、どうして一番になることができたのでしょうか？ 十二支の由来話です。

弾む言葉で日本語晴れ 十二支

1 味噌買い橋 文：山本省三／絵：末崎茂樹
正直者の若者が「味噌買い橋に立ってみよ。良い話が聞けるぞ」と老人に告げられる夢を見ます。夢のお告げを信じた若者は、味噌買い橋まで出かけて、辛抱強く何日も立ち続けます。それを見ていた豆腐屋の主人が話しかけてきて、主人が見た夢の話を始めると……。

弾む言葉で日本語晴れ 春の七草

2 だんだんのみ 文：北ふうこ／絵：たごもりのりこ
ととさんが、おなかの痛みを抑えるために蛙を飲み込み、今度は蛙がおなかで飛び跳ねてかなわないと蛇を飲み込み……。とだんだん飲み込むものが大きくなるナンセンスなお話。最後は豆をまいて兔を退治する、節分にもちなんだお話です。

弾む言葉で日本語晴れ 口上「がまの油」

3 花咲か爺さん 文：西村祐見子／絵：はせがわかこ
優しいお爺さんに飼われていた犬が、次々にお爺さんに福をもたらします。これを見ていた隣のお爺さん。欲を出しますが、次々に失敗し散々な目に遭います。最後は枯れ木に桜が咲いて華やかに幕を閉じます。日本五大昔話の一つ。

弾む言葉で日本語晴れ 歌舞伎「魚づくし」

※より良い絵本づくりのため、タイトルや企画内容を変更することがあります。ご了承ください。